

立願渚のお膳りゆうがんぶちの膳ぜん



立願渚

むかし、滝戸村の名主の家で婚礼こんらいがありました。
した。

ところが百人前の膳ばんねんがどうしても整ととのいま

せん。

困った名主は、下男げなんに探さがしてくるようにい
いつけました。

下男げなんは毎日あたりの村々を探さがし回りました
が、どうしても見つかりません。下男げなんは、疲
れきつて立願渚りゆうがんぶちの岩の上にしゃがみこんで、
「やれやれ、婚礼こんらいは明日だというのに膳ばんねんが見
つからない」とひとりごとをいいながらこま
つていました。

すると「これこれ、そこで何をしているの
か」という声こゑがしました。

うしろを見ると、白ひげのおじいさんが、
岩の上に立たっていました。

昭和五十五年四月五日号

「明日の婚礼よみらいに使う百人前の膳げんぜんと椀わんがなくて、困っています」というと、おじいさんは「そうか、では明日の朝早く、この岩の上に立って願ねがいごとをいえ。わしは、この洲すまの竜神りゅうじんじゃ」といったかと思うと、スッーと消えてしまいました。

下男げなんは、つぎの日の朝、岩の上に立って、「竜神りゅうじんさま、どうか百人前の膳げんぜんと椀わんを貸してください」といいました。すると不思議なことに、水の上にプカプカと百人前の膳げんぜんと椀わんが浮いてきました。下男げなんが運んできたのを見て、名主はびつくりしました。その明日、膳げんぜんをていねいにふき、お礼をいって洲すまの中に返しました。それから、村の人たちも借りるようになりました。

ある年、隣村りんそんの名主の家で法事ほうじがあり、や

はり竜神りゅうじんさまから百人前の膳げんぜんと椀わんを借りました。ところが返すときになると、どうしたのか膳げんぜんが一個たりません。

「一つくらい、たりなくても、わからないだろう」と思つて、だまつて洲すまの中へ返ししました。

それからのち、ほかの者が「竜神りゅうじんさま、膳げんぜんと椀わんを貸してください」といくら願ねがいごとをいっても、貸してくれませんでした。

アユやヤマメが釣れた

植田義次さん(久沢南)

滝戸という地名は、滝の下が戸ぶくろになつていたので、ついた地名だと思ふ。

むかし、この立願洲は水が豊富でアユやヤマメがたくさん釣れたよ。